



第52号

梅苑会報



福島県立福島高等学校



「エール」

も厳しい状況におかれた。
2年生は、1年次から取り組んできた課題研究の仕上げとなる研修旅行が中止となり、予定を変更して研究に取り組んだ。

1年生は、入学後2週間で休校となったため、校歌・応援歌講習が実施できず、また集会や選手壮行会もすべて中止となり、校歌を歌えないという問題がおこった。そこで、生徒会・応援団が協力して、10月に密を避ける工夫を凝らして例年の半分以下の日程で講習会を実施した。

伝統の梅苑祭に代わる行事として、「福高FF祭」を実行委員会が中心となって実施した。クラス毎に10分以内の動画を制作し、全クラスの動画をオンラインで視聴するという、全く新しい試みで、新聞等でも新たな文化祭のあり方として紹介された。

どのような状況にあっても、今、自分たちのできることで、自分たちのやるべき事をしっかり考え、前向きに全力で向かっていく生徒たちの姿に、福高生のたくましさ改めて認識させられた一年であった。無限の力と可能性を秘めた福高生に、心からエールを送りたい。

この一年、社会は未曾有の国難とでも言う事態に直面した。日々の状況は報道等で知ることではあるが、学校はどのような状況かを知る機会は少ない。この一年、福島高校はどのような状況だったのか。

【授業】

入学式・始業式の約2ヶ月にわたり
休校・時差登校・間引き授業・オンライン授業、夏季休業短縮、土曜授業

【学校行事】

対面式・スポーツ大会・梅苑祭・歩こう会・研修旅行等の中止

【部活動】

部登録後活動禁止、インターハイ・総体等の大会中止（7月まで）、12月から活動制限

3年生は、新学期が始まってからほとんど部活動を行うことなく、引退という生徒が多かった。さらに今年度から始まった共通テストや英語の外部検定利用などをめぐる対応の変更、入試情報等の錯綜など、受験において

福高フィルム・フェスティバル（FF祭）

梅苑祭の代替行事として昨年8月28日FF祭を開催した。各クラス10分以内で制作した動画を配信し、それを各教室で視聴するという企画であった。タイトル・テーマなどは自由で、脚本・撮影・演技・編集はすべて生徒たちが行った。準備期間が一ヶ月弱という日程のなか、課外の場合をみて制作に取り組んだ。来賓として柳沼宏寿氏（新潟大学教授）・阿部泰宏氏（フォーラム福島支配人）の両名を招き、審査をお願いした。撮影は校舎内や信夫山、近所の公園などで行い、どの作品も立派な仕上がりであった。これらの作品はDVDに収録し、全生徒に配布された。

実行委員はあえて「梅苑祭」の名称は使わなかった。梅苑祭の代替企画ではあるが、本来の梅苑祭とは別の企画と考えた。それは、コロナが収束し、本来の梅苑祭が復活することを願ってのこだわりであった。



column

太宰府天満宮恵与の梅



梅の木はたいへん元気に育っています。福高生も冬を越え、実りの春を迎えてほしい。との激励の言葉をいただいた。

今年も太宰府天満宮より恵与いただいた5本の梅の剪定が、令和2年11月28日（土）に行われた。来校されたのは毛利清彦潮見神社宮司（恵与当時の太宰府天満宮権禰宜）ご夫妻様、松大路信潔太宰府天満宮権禰宜様、太宰府天満宮一級造園技師古賀義悟様、中島紀寿様、新垣力様の6名。ご一行様は午前には福岡を出発、午後には福高に到着して剪定が行われ、竹田真二校長、教頭、同窓会有志並びに同窓会事務局員がお迎えした。剪定した古賀様から「コロナ禍の状況にあっても、梅の木はたいへん元気に育っています。福高生も冬を越え、実りの春を迎えてほしい。との激励の言葉をいただいた。」

～新入生にエール～

昨年春、本校を卒業した太田朝弓さん（高72回卒）は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、入学早々に行われていた伝統の応援歌講習が先送りされたことを受け、伝統継承の危機感から『福島高校 校歌・応援歌 現代語訳集』を制作した。太田さんは東京の大学に進学したが、授業はすべてオンラインとなったことで実際は上京せず、自宅で受講するかたわら、半年がかりでこれを完成させた。高校時代に梅章委員会で活動した経験を活かし、多くの方々に対面取材・電話取材、文献資料からの情報収集を行った。印刷は自ら行い、昨春秋に同窓生十数名の協力のもと製本作業を行い、一年生全員に配布した。冊子の後半では、同窓生の特別寄稿や福高に関する豆知識など、興味深い内容も含まれている。新入生に「福高のことをもっと知って、福高生としての誇りを持って高校生活を送って欲しい」という太田さんの熱い思いを、同窓会では支援していきたいと考え、次年度以降、この冊子は同窓会で印刷し、新入生に配布していく予定である。



令和3年度予算書（令和2年9月1日～令和3年8月31日）

令和3年度 一般会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	976,433		
(2)入会金	951,000	卒業生（317名×3,000円）	
(3)年会費	2,317,000	卒業生（317×1,000円） 同窓会会員（約1,000名×2,000円）	
(4)雑収入	50	利息	
(5)繰入金	1,000,000	母校後援会会計より	
合 計	5,244,483		

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
1.事業費	4,000,000		
(1)総会費	680,000	定期総会開催に関する費用	
(2)会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙	
(3)母校後援費	290,000	卒業生証書ホルダー	
(4)特別事業費	30,000		
2.運営費	875,000		
(1)会議費	200,000	役員会、幹事会	
(2)事務諸費	5,000	文員費	
(3)交際費	100,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員饗別、その他	
(4)慶弔費	20,000		
(5)通信費	40,000	切手、葉書代	
(6)旅 費	500,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費	
(7)雑 費	10,000		
3.予備費	369,483		
合 計	5,244,483		

項目間の流用をお認め願います。

令和3年度 母校後援会会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	2,761,394		
(2)会費	1,700,000	卒業生(317名×1,000円)、同窓会会員(約500名)	
(3)雑収入	50	利息等	
合 計	4,461,444		

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)後援会費	300,000	HP更新、母校への助成等	
(2)部活動助成	300,000	全国大会出場への激励金	
(3)一般会計	1,000,000	一般会計への繰入金	
(4)太宰府梅基金	500,000	太宰府梅基金への繰り入れ金	
(5)梅苑会館維持管理費	500,000	梅苑会館維持管理への繰り入れ金	
(6)会員名簿管理費	720,000	令和2年度分	
(7)予備費	1,141,444		
合 計	4,461,444		

項目間の流用をお認め願います。

令和3年度 梅苑会館維持管理会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	4,104,349		
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	50	利息等	
合 計	4,604,399		

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)修繕費	500,000		
(2)予備費	4,104,399		
合 計	4,604,399		

項目間の流用をお認め願います。

令和3年度 太宰府梅基金会計予算書（案）

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	2,947,517		
(2)同窓会梅基金	500,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	50	利息等	
合 計	3,447,567		

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)飛び梅交際費	550,000	交際費、接待費、諸経費等	
(2)飛び梅管理費	60,000	肥料・消費代等	
(3)予備費	2,837,567		
合 計	3,447,567		

項目間の流用をお認め願います。

令和3年度 一六回奨学会会計予算書(案)

1.収入の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)繰越金	7,000,282		
(2)同窓会寄付金	0		
(3)雑収入	50	利息	
合 計	7,000,332		

2.支出の部			(単位：円)
項目	予算額	摘要	
(1)交付金	3,500,000	令和3年度交付金（7名）	
(2)予備費	3,500,332		
合 計	7,000,332		

項目間の流用をお認め願います。

令和2年度決算書（令和元年9月1日～令和2年8月31日）

令和2年度 一般会計決算書

収入決算額・・・5,134,137円 支出決算額・・・4,157,704円 次年度へ繰越額・・・976,433円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	624,127	624,127		
(2)入会金	945,000	930,000	卒業生（310名×3,000円）	
(3)年会費	2,315,000	2,580,000	卒業生(310名×1,000円) 会員(923名)	
(4)雑収入	100	10	利息等	
(5)繰入金	1,000,000	1,000,000	母校後援会会計より	
合 計	4,884,227	5,134,137		

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
1.事業費	4,000,000	3,817,707		
(1)総会費	680,000	587,437	定期総会開催に関する費用	
(2)会報費	3,000,000	2,953,070	梅苑会報印刷、郵送代等	
(3)母校後援費	290,000	277,200	卒業生証書ホルダー	
(4)特別事業費	30,000	0		
2.運営費	875,000	339,997		
(1)会議費	200,000	98,722	R1年第2回役員会 R2第1回役員会封筒送付代	
(2)事務諸費	5,000	0		
(3)交際費	100,000	10,000	転出者饗別	
(4)慶弔費	20,000	0		
(5)通信費	40,000	17,732	往復葉書、切手	
(6)旅 費	500,000	212,220	関東・みやぎ梅苑会出席旅費 一六奨学金関係書類送付代	
(7)雑 費	10,000	1,323		
3.予備費	9,227	0		
合 計	4,884,227	4,157,704		

令和2年度 母校後援会会計決算書

収入決算額・・・7,601,145円 支出決算額・・・4,839,751円 次年度へ繰越額・・・2,761,394円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	6,053,112	6,053,112		
(2)会費	1,700,000	1,545,000	卒業生（310名×1,000円） 会員（647名）	
(3)雑収入	50	3,033	利息、寄付	
合 計	7,753,162	7,601,145		

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)後援会費	300,000	182,105	同窓会HP利用・更新、賞状名入れ、記念品	
(2)部活動助成	300,000	200,000	全国大会出場助成等	
(3)一般会計	1,000,000	1,000,000	一般会計への繰り入れ	
(4)太宰府梅基金	500,000	500,000	太宰府梅基金への繰り入れ	
(5)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	梅苑会館維持管理への繰り入れ	
(6)会員名簿管理費	710,000	715,550	会員データ管理業務	
(7)母校設備費	1,500,000	1,497,366	iPad購入	
(8)予備費	2,943,162	244,730	額縁購入	
合 計	7,753,162	4,839,751		

令和2年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書

収入決算額・・・4,394,265円 支出決算額・・・289,916円 次年度へ繰越額・・・4,104,349円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	3,894,233	3,894,233		
(2)積立金	500,000	500,000	母校後援会会計より	
(3)雑収入	50	32	利息	
合 計	4,394,283	4,394,265		

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)修繕費	300,000	289,916	梅苑会館修繕費	
(2)予備費	4,094,283	0		
合 計	4,394,283	289,916		

令和2年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額・・・3,456,796円 支出決算額・・・509,279円 次年度へ繰越額・・・2,947,517円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	2,956,774	2,956,774		
(2)同窓会梅基金	500,000	500,000	同窓会会員	
(3)雑収入	100	22	寄付金、利息	
合 計	3,456,874	3,456,796		

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)飛び梅交際費	450,000	509,279	旅費、接待費、贈答品	
(2)飛び梅管理費	60,000	0		
(3)予備費	2,946,874	0		
合 計	3,456,874	509,279		

令和2年度 福島高校同窓会一六回奨学会会計決算書

収入決算額・・・8,000,282円 支出決算額・・・1,000,000円 次年度へ繰越額・・・7,000,282円

1.収入の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)繰越金	8,000,214	8,000,214		
(2)寄付金	0	0		
(3)雑収入	50	68	利息	
合 計	8,000,264	8,000,282		

2.支出の部				(単位：円)
項目	予算額	決算額	摘要	
(1)交付金	3,500,000	1,000,000	令和2年度交付金（2名）	
合 計	3,500,000	1,000,000		



同窓会会長
渡辺 健寿
(高校第17回卒)

コロナ禍の 令和2年度同窓会

昨年は新型コロナウイルス感染症の問題に明け暮れた一年でした。

コロナ禍と言われる事態で、自粛、ステイホーム、テレワーク など社会環境も日常の生活環境も大きく変わりました。

福島高校においても、昨年の卒業式、4月の入学式はいずれも新型コロナウイルス感染症防止のため異例の縮小形式で執り行われ、卒業生、在校生、新入生、教職員、保護者いずれの方々にとっても残念なものであったと推察しています。

同窓会の運営も苦難の一年でした。2月28日の同窓会入会式はコロナ対策のため中止。5月15日の第1回役員会は書面開催で、芳賀裕（高22回）、菅野日出喜（高23回）、高橋雅行（高24回）の3氏を副会長に委嘱。10月16日の第2回役

員会はソーシャルディスタンスを考えた配置のもとにマスク着用で開催。11月20日の総会は十分な感染防止対策を講じたうえ参加者を制限して開催。みやぎ梅苑会の担当により東北電力株式会社代表取締役社長樋口康二郎氏（高28回）の記念講演をお願いしました。

5月29日の関東梅苑祭は延期、9月11日のみやぎ梅苑会総会は中止。11月21日、会員の熱意により関東梅苑祭がオンラインで開催され、飯舘村の前村長菅野典雄氏（高17回）が、ZOOMで各地の会員に向けて東日本大震災と東京電力原発事故後の対応などをテーマに記念講演を行いました。ウィズコロナの新しい同窓会開催の試みとして評価されると思います。

こうした中で、9月16日菅内閣の発足で平沢勝栄氏（高16回）が復興大臣に就任され

たことはまことに喜ばしく、同窓会としても誇りとするところ です。

また、新型コロナウイルス感染拡大で福島高校伝統の応援歌講習を実施できなかった一年生に校歌や応援歌の理解を深めてもらおうと、高校72回卒業生太田朝弓さんたちの発案により作成配布された「校歌・応援歌現代語訳集」は、コロナ禍に負けない成果であったと思います。同窓会が支援してこの「校歌・応援歌現代語訳集」を1000部増刷し、今後の新入生に配布されることとなりました。

ようやくワクチン接種の体制をめぐる議論がなされるようになって来ました。一日も早い新型コロナウイルス感染の終息を願いながら、会員の皆様にはウィズコロナの同窓会活動にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福高 同窓会総会



令和2年度「福高同窓会総会」が11月20日（金）18時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。今年度の総会は、参加人数の制限や体調チェック・消毒など、感染症対策を徹底しながらの開催となりました。

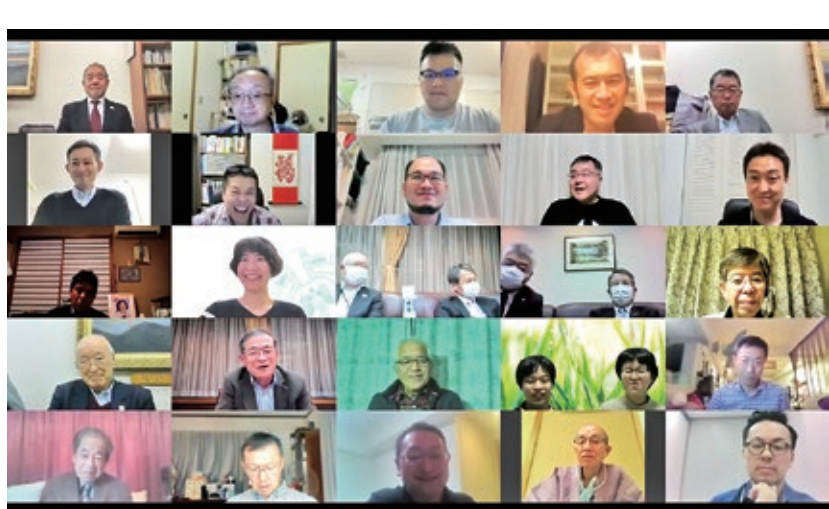
総会に先立ち、福島県出身者としては初の代表取締役社長に就任された、東北電力株式会社 樋口康二郎氏（高校第28回卒）による「震災後10年を振り返って」東北電力における取り組み」と題した記念講演がありました。樋口氏には、ライフラインを担う電力会社としての復興への歩みについて熱く講演いただきました。

総会では、物故者への黙祷を行った後、会長・校長の挨拶があり、各議案の承認、規約改正の議決がなされました。

関東梅苑会だより

初めてのチャレンジ 「関東梅苑祭2020」 オンライン開催

関東梅苑会は、平成5年に同窓会関東支部として再結成されて以来、「定期総会」と「関東梅苑祭」を一年おきに開催してきました。残念ながら昨年の「関東梅苑祭」はコロナ禍によりリアルな会合とはなりませんでした。ZOOMを活用して11月21日（土）17時よりオンラインで開催することができました。開催までの実行委員会の活動や経緯についてお伝えします。



●ZOOMによる実行委員会
実行委員会は例年、5月末の同窓会開催に向けて、1月末頃から会議を始めます。ほぼ毎月1回のペースで渋谷の信陵会館（福島大学同窓会東京支部）に集まり、準備のための打ち合わせを行ってきましたが、昨年は感染が広がりはじめた4月以降の会議をZOOMによるオンライン形式で行いました。

ZOOMのようなツールは、今では仕事やオンライン飲み会などでよく利用されていますが、使い始めた頃は知識のあるメンバーも少なく、慣れているメンバーが携帯電話で、ZOOMの接続や操作、カメラ接続などをサポートし、試行錯誤しながら開催しました。

●オンライン開催の決定
実行委員会の一番の議題は「2020年の関東梅苑祭をどうするか？」ということでした。3月4月の感染状況を考えれば、リアル開催の見送りはメンバーの一致した気持ちではありましたが、オンライン開催については当初、消極的なムードもありました。しかし、ウェビナーなどのイベント運営を経験したり、仕事を頻繁に使っているメンバーから、オンラインによる交流やイベント開催の面白

さ・可能性について、さまざまな事例やアイデアが提案されたことで、みんながオンライン開催のイメージを持てるようになり、それに向けた準備が進められることになりました。

議論の中で「コロナ禍にあっても福島高校生の繋がりの場や交流の縁を途切れさせたくない」「同窓会活動のような文化は松明の灯火のようなもので、世代を超えて受け渡していくことに意義がある」「社会情勢が変わるなら、それに応じた形でチャレンジしたい」などの気持ちを共有できたことは、別の意味でよかったと思います。

●当日の様子
イベント当日はのべ40名ほどの同窓生が参加してくださいました。関東梅苑会・戸松哲男会長の挨拶で開会し、来賓の渡辺健寿同窓会会長と竹田真二校長、恩師の加藤知道先生（現県立橘高校校長）からの祝辞や近況のお話に続き、前半のメインイベントである飯館村前村長・菅野典雄さんに約30分の講演をしていただきました。その後、関東梅苑会・丹治清吉名誉会長の乾杯で懇親の部となり、いくつかの少人数グループに分かれて（ブレイクルーム）、交流の時間を楽しんでいただきました。

【お知らせ】
「2021年度定期総会」について
新型コロナの感染状況を鑑み、従来のような同窓会会員にお集まりいただく形式での「2021年度総会」は実施致しません。総会で執り行う議案審議はZOOMによるオンライン形式で行う予定です。詳細はホームページにてお知らせいたしますので、ご確認をお願いいたします。

来賓やゲストの皆さんは、福島民報社の会議室からのリモート参加となりました。この紙面をお借りして、福島民報社とご尽力いただいた関根英樹さん（33回）に御礼を申し上げます。

●やり終えた感想
当日参加した同窓生から、これまでは時間や場所の都合で同窓会に参加できなかったが、今回はオンラインだから参加できた、という感想も聞かれ、ZOOMなどを活用した「リモートでつながる取組み」は今後、コロナ禍などとは関係なく、同窓生との交流に有効だということを再認識しました。改善や見直しは多々ありますが、新しいことにチャレンジできたことについては実行委員全員が前向きに感じており、これからも新しい交流の機会について考えていきたいと思っています。

関東梅苑祭2020 前飯館村村長・菅野典雄さん講演

「東日本大震災後を振り返って」

ご紹介いただきました菅野でございます。来年3月で東日本大震災から10年目を迎えます。全村避難という困難な状況の中、飯館村村長として経験したことや学ばせていただいたこと、心がけていたことなどを3つほどお話しさせていただきます。

◆村民避難を乗り越えて —柔軟な発想とバランス感覚—

まず1つ目は原発事故後の村民避難についてのことです。東日本大震災の津波によって原発事故が起き、直ぐに約6,000人弱の村民を全員避難させてください、という国からの通達がありました。全村民を避難させるということ事態、もちろん経験はありませんし、緊迫する状況の中でどうすればいいだろうと非常に悩みました。放射能に対しては百人百様の考えがありますので、その中で物事を進めることの大変さを痛感しました。

国からは避難先として長野県や岐阜県などの提案がありまし

たが、お断りしました。できるだけ早く遠くに避難するという考えは理解できましたが、避難して生活が変化することによるリスクも相当に大きいと考えたからです。時間はかかりましたが、結果的には村からクルマで1時間以内のところに、人口の90%の村民を避難してもらうことができました。それによって、その後のいろいろな課題について、ほかの自治体よりも数倍も多く、村民と話し合いの場を持つことができましたし、お互いに本音の話ができたことはとてもよかったと思います。自主的に各地区のコミュニティができましたし、避難先から近かったことにより、子どもたちがスクールバスなどを使って村の学校に通うことにもなりました。

周りの方々には、固定観念にこだわらずにできるだけ柔軟に考えましよう、バランス感覚を持って考えましよう、と発信してきました。放射能のリスクと生活の変化によって起きるリスクとのバランスを考えながら、村民の方々に避難していただく



菅野典雄さん
(高17回)

ことができたのは、大きなポイントだったと思います。

仕事柄、各種の新聞を読む習慣が身に付きましたが、新聞広告からも多くのことを学んだと思っています。そこには行政には思いつかないような発想があり、それを仕事に活かしていくことが大切だということにも気づかれました。



面白い広告を2つ持ってきました。男性の大きな腹と女性の大きな腹を突き合わせた写真は、少子化問題と肥満（健康）対策のための医療費の問題を提起しています。凄い発想だなと思います。もう一つの方には、「愛を注いでくれた人に愛で応えたい」というコピーが入っています。わたしは常々「生きている

ということは誰かに借りを作り、生きている限りは誰かに世話になるということ。そして生きていくというのはその借りを返していくこと」だと思っており、ですので、この広告に強く共感しました。このような他からの視点やメッセージに「気づき」を持つことが、固定観念にとらわれない、ということなのではないでしょうか。

さて、実際の避難にはとても時間がかかり、その過程で住民の方から自分たちをモルモットにするのか？などと言われたこともありました。しかし、少なくとも後々のことまで考えながら避難の方策をとったことが、今はいろいろな形で生きていると思っています。

放射性物質に対する村民の異なる温度差の中で、村長として決断し進めることはとても大変なことではありましたが、自分としてはまずまずいい避難ができたと思っています。

◆加害者と向き合って 「まどいの心の大切さ」

2つ目は被害者としての考え方についてです。

わたしたちは、避難しなければならぬ状況に強いられたいというところでいえば被害者であり、加害者が誰かといえは、原発事

故を起こした東京電力であり、また、原発を進めてきた国であります。その意味では被害者と加害者という敵対する関係になるわけです。加害者に対する不満はいくらでもあるけど、起きてしまったことについて、いくら愚痴を言っても何の解決にもなりません。彼らも少しでも復興させようと思っているはずですし、我々も復興したいと思っていますので、向かっている方向は同じです。なので、被害者と加害者の関係を少し脇に置いて、お互いに目指すところに向かって、提案を出し合い、話し合いを進め、前に進むことができると思います。そうしたことで国にいろいろなことを考えていただくことができたのですし、通常ではできないことを一つでも二つでも村民に提供してあげることが、行政や私の使命なのだと思います。

道路の除染は表土を5cmほど削り、きれいな土に入れ替える工事です。多くの農家は、公道から家屋に入る部分が長い砂利道になっていることが多いので、除染工事の際に、復興予算を活用した簡易舗装化ができないものかと考えました。簡易舗装にする場合、半分は農家負担で、半分は飯館村負担という制度をつくり、村の負担分を復興

予算で補ってもらおうというものです。しかし、何度国にお願いしても、私道の舗装に国の税金は使えませんが、この理由で拒否されました。確かに通常であればその理屈は十分理解できるのですが、これは特別な状況下の話です。村民に何かしてあげられないか、という思いで1年半ぐらい粘り強く国に交渉しました。役場の職員からも「国の言い分が正しいので、村長も諦めましょう」と言われていた頃に、国から嬉しい知らせがありました。それは、家屋に入る道は郵便局員が使う道でもあるので、飯館村が事業主になって村道として作るのであれば、その費用に復興予算を出すことはやぶさかではない、というものです。こうして、簡易舗装ではないしっかりした舗装道路工事が当初の300戸から600戸に拡大して行われることになりました。こちらの思いをしっかりと伝えながらも、相手の立場も配慮し、一方的ではない話し合いを進めた結果、実を結んだことです。大変勉強になりました。

またこのことは、飯館村が大切にしている「までい」の精神につながります。「までい」とは両手という意味の福島県の方言で、漢字では「真手」と書きます。両手に由来し、大切に、念入りに、手間暇惜まず、心を込めて、つましくなどの意味もあります。飯館村が、お互い様、相手に心をかける、心のシェアをするなどの気持ちを大切にしてきたことで、いろいろな困難を乗り越えることができたと思っています。

間もなく完成する大型の焼却場もその一つです。作ってもらうことの条件は、福島市など隣地区の汚泥の処理を受け入れるということでした。普通であればとても受け入れられない条件ですが、避難している村民がお世話になっている近隣市町村への恩返しをすることは「までい」の考えに沿ったものであり、飯館村の先輩たちによって受け継がれた気概だと考えて、その事業を進めました。

また、フレコンバックに入れて積みあがっている汚染土壌についても、できるだけ中間貯蔵される量を減らすために、十分な安全対策について国と話し合っています。「までい」の精神や、相手の立場に思いをかけてこちらの思いを伝えることで、飯館村の復興は大きく進展したと思っています。

◆次世代を考える
―豊かな見直し―
飯館村の年間予算は、震災以前

みやぎ梅苑会だより

コロナウイルスに勝てなかった みやぎ梅苑会

令和2年度みやぎ梅苑会の主な活動はほぼ新型コロナウイルス禍の影響で延期、中止となりました。平成8年10月に母校100周年の節目に併せ宮城支部を再建させて以来初めてのことで残念です。

- 主な活動状況を報告いたします。
- 令和2年2月 9月の総会会場予約
 - 4月 みやぎ梅苑会ゴルフコンペ (延期)
 - 5月 同窓会役員会 (書面対応)
 - 5月 梅苑会親睦ゴルフ大会 (延期)
 - 5月 関東梅苑祭 出席予定 (延期により出席せず)
 - 6月 土井晩翠先生が作詞した校歌をいっしょに歌いましょうの会 実行委員会
 - 7月 A K A Z A会 (工業の会) (中止)
 - 7月 役員会・学年幹事会 (メールにて開催)
 - 8月 総会中止決定 内容を郵送・ホームページで告知
 - 10月 梅苑会親睦ゴルフ大会参加 (準備中)
 - 11月 みやぎ梅苑会ゴルフコンペ開催
 - 11月 同窓会総会出席
 - 記念講演 東北電力社長 樋口康一郎氏

総会につきましては、令和3年10月で支部再建後25年を迎えますので、企画を凝らして開催したいと思っています。

1年延期し令和3年10月に開催予定の「土井晩翠先生が作詞した校歌を歌う会」は第10回の開催となります。参加者を増やし福島高校校歌を大声で歌いたいと思います。平成27年に発足した土業プロフェッショナル集団「AKAZA会」(弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、不動産鑑定士、社労士、行政書士、FP技能士、等 約30名が参画)の活動(相談会、研修会)も再開いたします。

有志により企画した、東北薬天ゴルフデンイグルス観戦みやぎ梅苑シートも中止となりましたが、来年度は活用したいと思っています。

来年度も当支部の活動にご指導をよろしくお願いいたします。



みやぎ梅苑会ゴルフチームメンバー
梅苑会親睦ゴルフ大会 準優勝でした。
来年は、優勝を目指します。



平成30年度の総会において、歴代の会長より以前からの悲願であった「みやぎ梅苑会の会旗」を寄贈いただきました。



「土井晩翠先生が作詞した校歌を歌いましょうの会」で披露しました。



「みやぎ梅苑会の思い出」
第七代会長 鈴木征夫 (高校12回卒)

令和2年は、コロナに始まり異常な一年となりました。総会・懇親会も開催できず、ほとんど活動もありません。間もなく迎える令和3年こそ充実したみやぎ梅苑会にしたいと考えています。

福島高校卒の私達にとって仙台は東北の中心都市であり隣町です。会員皆さまの力でOB、OGを把握し声を掛け合い組織の拡大と充実をはかる一年にすべきです。

会の内容も検討し、会員にとってプラスになるよう努力していきます。先輩を大事に、後輩には優しく相談相手になれる楽しい同窓会にしてください。それこそが、みやぎ梅苑会の目標です。



「活発なみやぎ梅苑会に」
第八代会長 佐藤隆 (高校15回卒 現会長)

寄贈いただきました、3名の
歴代会長より会旗 同窓会へ
おもいを投稿いただきました。



スペインの「多く持つてない人が貧しいのではなくて、多く欲しがる人が貧しいのだ」という諺や、デンマークの「年寄りたちの犯した罪の罰をこどもたちが受ける」という諺は、一生懸命に次の世代のために頑張っている豊かさを高めても、結果的にはその豊かさがいろいろなところで弊害を引き起こしていることを表わしています。

今100万人もの大人の引きこもりがあるそうです。個人的にはその大きな原因は豊かさによって引き起こされており、また、教育にも問題があるのではないかと感じています。現代は既に成熟社会であり、それを踏まえて豊かさや教育の在り方について正しく次世代にバトンタッチし、安心で安全な社会が続くよう、みんなで知恵を絞っていくことを願っています。

「までいライフ」という考え方は、小さな村の生き残り策だと思っ取り組んでおりました。避難生活を経験して思うことは、日本の20年30年後の社会の在るべき姿が「までいライフ」なのではないかと思っています。

飯館村の皆さんは、これまで大変な思いをされましたし、まだこれからも続きますが、一方でこうした災害がなければ、できなかったことや考えなかつたことも多く持つてない人が貧しいのではなくて、多く欲しがる人が貧しいのだ」という諺や、デンマークの「年寄りたちの犯した罪の罰をこどもたちが受ける」という諺は、一生懸命に次の世代のために頑張っている豊かさを高めても、結果的にはその豊かさがいろいろなところで弊害を引き起こしていることを表わしています。

私が同窓会に携わったのは、みやぎ梅苑会として再結集してスタートした平成8年2年前ですので、それから25年、四半世紀が経過しております。

当初は職域毎の集まりでしたが、宮城県内に所在する同窓生はそれぞれ大変な人数ですので、それをなんとか纏めることはできないかとの思いで始まったと記憶しております。

21世紀に入って早や20年が過ぎました。何が起るか分からない大変な時代です。加えてAI技術の進歩が人間性を軽視してしまっている一面もあります。

こういう時こそ、みやぎ梅苑会の設立目的であります「会員相互の揺るぎない心の絆を深めよう」という活動は世の中がいかに変わっても代わるこのないポリシーではないでしょうか。

みやぎ梅苑会にも東日本大震災に合わせてタイミング良く「AKAZA会(工業交流会)」が設立されました。AKAZA会は同窓生の困りごと、悩みごとの相談に乗って呉れる方々の集まりですので、私ども同窓生にとりまして安心感のある存在になっております。

今は、コロナ禍で大変な社会です。比較的多い医療に携わっておられる同窓生に頑張って何とかこの困難な時期を乗り切ってくださいとエールを贈ります。

同窓会は母校を思う同窓生を束ねて母校の最大の応援団になることです。同窓生同士の助け合いを通して

たことも沢山ありました。ただ大変なこと、苦しみ辛いことばかりではなかったとも思っています。そうしたことを心に刻み、これからの困難にも向き合っていくことが、心身共に健康でいられる秘訣なのではないかと考えるようになりました。

村長を退職する間際に『モノハンガエウ』という本を執筆しました。生きていくうえで、これから困難なことがおきないとは限りません。その時にそれをプラスにとるかマイナスにとるかは考えようです。もし楽な道と困難な道を選ぶことがあんならば、絶対に困難な道を選んだ方があなたのためになります、ということを書いています。

村民も自分も大変な思いをしました。普通の人を経験できない道を切り開いてきた経験は、きっと自分の糧になっていると思っています。本日はどうもありがとうございました。



繋がりを深めていくことが大切です。私どもの「心の縁」になっております。母校のさらなる繁栄を願います。みやぎ梅苑会を盛り上げて行ければと思っています。

「みやぎ梅苑会会旗への思い」
第六代会長 歌川和夫 (高校17回卒)



私が会長を務めさせて頂いていた頃から支部総会や土井晩翠先生作曲の校歌を歌う会の壇上には掲げたいと「みやぎ梅苑会会旗」の議論はありましたが、厳しい財政状況から実現できないままでした。従って、直近歴代会長による寄贈の提案に対しては快諾させて頂いた次第です。

09年の総会で突然会長に任命され、それまで名ばかりの役員であった丈に大きな驚きとともに戸惑いながらのスタートでしたが、事務局の強力なサポートと諸先輩ならびに会員各位の暖かいご支援を頂き乍ら何とか務めさせて頂いた事に改めて御礼申し上げます。

会長就任後は本部役員会や総会および関東梅苑会総会にも出席させて頂き、多くの方々と交流させて頂いたことは大きな喜びです。同窓会出席の度に福島高校同窓生の素晴らしい姿を再認識すると共に、その一員であることを誇らしく感じさせて頂いております。福島高校栄えよく、母校の発展と同窓会の隆盛を祈念致します。

令和三年度の大学入学共通テストの志願者数は五十三万五千二百四十五人で昨年より二万二千四百五十四人減少した。なお福島県内では昨年度より三百人程度少ない出願数であった。昨年度までの「大学入試センター試験」が終了し、「大学入学共通テスト」に変わったため今年度が最初の大学入学共通テストとなった。昨年度出題された、対話形式の問題、イラストから選ぶ問題、実験を題材とした問題などが共通テストでも出題されたが、本校生は落ち着いて二日間の試験に臨んだようである。

全国の科目別平均点では、今年度から実施された英語リーディング、リスニングは平均点はさほど変わらないものの上位者が減少し難化した。国語は前年並みの難易度だった。昨年難化した数学Ⅰ・Ⅱの点数は大幅に上昇した。理科では生物と化学で平均点の差が二十点以上となり、得点調整が行われ、化学、物理で加点された。また、倫理と政治・経済でも得点調整が行われ、政治・経済、現代社会で加点された。このため、平均点がやや上昇し、七科目の平均点（九百点満点）は文系・理系ともに昨年度を五・十点程度上回ることになりそうだ。結果的に高得点者が多い得点分布になっている。なお、理科や地歴公民の科目に得点調整が行われたため、受験生にとって

何ができるのか、どのような形ならできるのかを、生徒たちが追求してきた結果が、行事の実現につながったのであります。

部活動についても、県大会や全国大会の中止が相次ぎ、3年生は煮え切らない思いを抱きながら引退せざるを得ない状況でありました。そのような中、実施された数少ない大会で、陸上競技部は男子100mで全国大会に出場を果たし、スーパーサイエンス部は、オンラインで実施された研究発表会で文部科学大臣特別賞を受賞いたしました。さて、今年はクラス数減の2年目で、1・2年生が7クラス、3年生のみ8クラスとなり、生徒数は約880名となりました。クラス数の減は、少子化等に対応し、県教育委員会が進めている高等学校改革の一環であります。

この改革で本校に大きく関わる件がもう一つございます。それは令和4年度の入学生から「単位制」を導入するというも

入試出願状況（現役の延べ数・推薦、AOは含まない） 2月16日現在

項	大学名	令和2年	令和元年	平成31年	平成30年
国公立大	北海道大	12	10	23	11
	岩手大	1	3	7	3
	東北大	50	59	54	77
	山形大	22	30	32	16
	福島大	103	91	91	69
	茨城大	10	11	17	9
	筑波大	14	13	17	9
	宇都宮大	5	11	8	11
	埼玉大	17	19	14	19
	千葉大	22	23	30	26
	東京大	10	9	14	14
	東京外語大	0	6	1	4
	東京工業大	5	0	5	3
	一橋大	4	1	4	2
	横浜国立大	4	2	6	6
	新潟大	32	39	52	46
	京都大	4	8	6	2
私立大	その他	63	62	45	62
	県立医科大	25	17	36	33
	県立会津大	3	4	3	3
	高崎経済大	5	2	9	14
	その他	40	25	31	21
	東北学院大	25	25	25	16
	青山学院大	6	10	8	28
	慶應義塾大	8	9	8	12
	上智大	1	5	3	4
	中央大	47	36	31	47
	東京理科大	14	21	27	14
	日本大	10	13	25	18
	法政大	57	26	40	68
	明治大	31	35	44	67
	立教大	22	17	14	20
	早稲田大	21	33	39	54
	その他	252	328	289	327
国立大学合計		378	397	426	389
公立大学合計		73	48	79	71
私立大学合計		494	558	553	675
総計		945	1,003	1,058	1,135

大学合格者数（過年度卒を含む）

項			令和元年	平成31年	平成30年	平成29年
合格者数	国公立大	北海道大	3	3	6	4
		岩手大	1	5	2	5
		東北大	35	29	34	34
		山形大	15	19	6	12
		福島大	37	36	25	36
		茨城大	6	4	3	2
		筑波大	8	8	2	5
		宇都宮大	8	5	8	3
		埼玉大	9	13	6	10
		千葉大	5	13	14	8
		東京大	8	4	5	3
		東京外語大	2	1	1	2
		東京工業大	0	1	0	3
		一橋大	2	3	0	0
		横浜国立大	0	2	0	3
		新潟大	17	31	13	20
		京都大	2	3	3	2
	その他	31	19	38	26	
	県立医科大	14	12	18	20	
	高崎経済大	0	4	4	2	
	その他	16	10	11	18	
	小計	219	225	199	218	
	私立大	慶應義塾大	11	5	2	7
		早稲田大	15	12	14	23
		中央大	17	18	19	35
		明治大	27	16	27	27
		法政大	11	11	15	25
立教大		15	6	7	14	
日本大		15	15	22	23	
東北学院大		24	22	13	6	
同志社大		1	2	8	4	
その他		240	192	210	239	
小計	376	299	337	403		
大学	準大	0	2	0	2	
	短期大	4	1	2	0	
	各種学校	2	2	2	1	
合計	601	529	540	624		
就職	職	1	1	3	0	

進学展望

進路希望の動向

10月19日、生徒昇降口前のアスファルトコートに、太鼓の音と「声が小さいせー」という2年生の怒鳴り声、そして「オスッ」という1年生の返事が響き渡りました。「これが福高だ」と久し振りに実感した時間でした。4月の実施を見送っていた1年生の応援歌講習であります。コロナウィルス感染症は、本校の学校運営にも大きく影を落としていることは、もちろんであります。4月下旬から約1ヶ月にわたる臨時休校があり、学校行事については、1年生の応援歌講習は先ほどのとおり10月末に実施しましたが、密を避けるため学年を2分割し、期間を短縮しての実施となりました。また、梅苑祭については一般公開はせず、クラスごとに動画を撮影し上映する「Fukuko Film Festival (FF祭)」という形で校内のみで実施いたしました。これらの行事の実施に当たり、原動力となったのはもちろん生徒たちでありました。この状況



福島高等学校長
竹田 真二

「この1年を振り返って」

のであります。現在は「学年制」で、学年によって学習する科目が定められていて、成績が満たされたときに次の学年に進級となりますが、「単位制」には学年という概念はなく、学習する科目を自由に各人が選択できるというものであります。現在、本校としてどのような形が望ましいのかを検討中であります。

同窓会におかれましては、今年も、全国大会出場者への激励金や一六回の奨学金など数々の御支援ありがとうございます。混迷する世の中においても、答えのない課題に立ち向かっていけるような、たくましい福高生を育てていきたいと考えておりますので、今後とも御支援をお願いいたします。

部活動成績

【硬式テニス部】

- 福島県高等学校新人体育大会テニス競技
男子団体 3位
女子団体 ベスト8
- 福島県春季選抜ジュニアシングルステニス選手権大会
男子U 18 緑川瑛準 7位
- 福島県ダブルステニス選手権大会ジュニアの部
男子 緑川瑛準・本田亮斗 5位

【ソフトテニス部】

- 福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会
団体 ベスト8

【陸上競技部】

- 全国高等学校陸上競技大会
男子100 m B決勝 7位 志賀理望
- 全国高等学校リモート陸上競技選手権大会
男子100 m 9位 (9516人中) 志賀理望
- 東北高等学校新人陸上競技選手権大会
男子5000 m出場 松田 脩
女子走高跳出場 児玉亜依

【ラグビー部】

- 福島県高等学校新人体育大会ラグビーフットボール競技
Bブロック（7人制）優勝

【写真部】

- 福島県写真展 優秀賞 氏家 花爾

【囲碁部】

- 福島県高校囲碁新人大会女子個人戦
優勝 丹野 千咲
準優勝 佐藤 明璃
- 東北地区高校囲碁選手権大会 団体戦出場

【スーパーサイエンス部】

- 全国SSH生徒研究発表会 生徒投票賞 伊藤英聖
- 化学グランプリ 2020 全国大会 銀賞 菊地裕斗
- 令和2年度「科学の甲子園」福島県大会 準優勝
石黒勇樹 小椋蒼士 佐藤真里佳 錫谷智 長南有生
和田晴人 中村心音 廣居桜子
- 福島県生徒理科研究発表会
最優秀賞 地学部門「福島盆地内の孤立丘についての研究」諏訪優太

【梅章委員会】

- 全国高等学校総合文化祭 新聞部門
- 全国高校新聞年間紙面審査賞 優良賞

福高生の活躍!!

寄贈図書紹介（令和2年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
2020.03.27	18歳までに知っておきたい法のはなし	神坪浩喜	神坪浩喜	2020.06.30	官僚制の思想史 近現代日本社会の断面	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）
2020.03.27	「LINE公式アカウント」 5G時代の「神」営業術	菅谷信一	菅谷信一	2020.07.15	明六雑誌 上	山室信一 中野目徹	中野目徹（福高31回卒）
2020.03.27	いっしょに 2019		高松ボランティア協会	2020.07.15	明六雑誌 中	山室信一 中野目徹	中野目徹（福高31回卒）
2020.03.27	芭蕉との対話 五十音順編	松尾芭蕉 剣持雅舟	剣持文庫	2020.07.15	明六雑誌 下	山室信一 中野目徹	中野目徹（福高31回卒）
2020.03.30	幸福について	ショーペンハウアー	福高21回卒有志	2020.07.15	筑波大学中野目ゼミ20年の歩み 1992～2012	筑波大学中野目ゼミ二十周年記念行事準備会	中野目徹（福高31回卒）
2020.03.30	コンパスローズ英和辞典	赤須薫	福高21回卒有志	2020.07.15	鈴木虎雄 史料の整理と解説	中野目徹 田中友香	中野目徹（福高31回卒）
2020.04.3	自治体職員のための ようこそ地方自治法 〔第3版〕	板垣勝彦	板垣勝彦 （福高51回卒）	2020.07.15	公文書管理法とアーカイブズ 史料としての公文書	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）
2020.04.3	未来への遺産	東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会	東北大学大学院文学研究科講演・出版企画委員会	2020.07.15	中野目徹 履歴年譜・著作目録 （1960～2020）	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）
2020.04.3	最前線の生命学者23人が教える いのちを科学する仕事	朝日新聞出版	テルモ生命科学振興財団	2020.07.15	県文学集 第67集 第72回福島県文学賞受賞作品集	福島県文化スポーツ局文化振興課	福島県文化スポーツ局文化振興課
2020.04.3	海はだれのものか	秋道智彌 角南篤	笹川平和財団 海洋政策研究所	2020.09.30	「第17回八香会となかま展」の 出品作品の記録	八香会	八香会（福高8回卒）
2020.04.3	海洋白書 2020		笹川平和財団 海洋政策研究所	2020.09.30	世界の日本語学習者（64カ国・地域の 112人が書いた ユニークな「日本文化」論	大森和夫 大森弘子	大森和夫 大森弘子
2020.04.3	歌集白い虹	近藤栄昭	近藤栄昭	2020.09.30	情熱のアフリカ大陸サハラ「消毒剤普及 プロジェクト」の全記録	田島隆雄	幻冬舎メディア コンサルティング
2020.04.3	民法概論 4 債権各論	山野目章夫	山野目章夫（福高29回卒） 高橋俊文（福高38回卒）	2020.09.30	前祝いの法則 日本古来最強の引き寄せ	ひすいこたろう、 大嶋啓介	人間力大学
2020.06.30	政教社の研究	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	2020.10.23	「学校図書館ガイドライン」 活用ハンドブック 実践編	堀川照代	東北高等学校図書館研究会
2020.06.30	季刊日本思想史 No.67 特集—近代の歴史思想	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	2020.10.28	福島中央テレビ50年史 50年史編集委員会・50年史編集室	福島中央テレビ	福島中央テレビ
2020.06.30	近代史科学の射程 明治太政官文書研究序説	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	2020.12.02	都市計画家堀切善次郎伝	紺野浩	紺野浩（福高18回卒）
2020.06.30	書生と官員 明治思想史点景	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	2020.12.25	AIは人類を駆逐するのか？ 自律世界の到来	太田裕朗	太田裕朗
2020.06.30	明治の青年とナショナリズム 政教社・日本新聞社の群像	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	2020.12.25	私たちはどう生きるか コロナと向き合う	婦人友社編集部	藍原幸榮
2020.06.30	近代日本の思想をさぐる 研究のための15の視角	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	2020.12.25	「学校図書館ガイドライン」活用ハンド ブック 解説編	堀川照代	福島県高等学校司書研修会 東北・相双部会
2020.06.30	三宅雪嶺	中野目徹	中野目徹（福高31回卒）	(その他多数の寄贈図書をいただきました)			

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

令和2年度 同窓会役員

会長	渡辺 健寿	高17回
副会長	佐藤 隆	高15回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	戸松 哲男	高19回
副会長	芳賀 裕	高22回
副会長	菅野 日出喜	高23回
副会長	高橋 雅行	高24回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	上竹 豊	高14回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	熊坂 英二	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	佐藤 信雄	高21回
常任理事	加藤 典義	高23回
常任理事	渡邊 誠	高25回
監事	松野 孝司	高20回
監事	尾形 克彦	高22回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回

理事	萩原 義弘	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	渡辺 博美	高17回
理事	横山 純	高17回
理事	木戸 孝志	高17回
理事	小林 勇一	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	斎藤 高紀	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	伊藤 幹夫	高20回
理事	網代 智恵	高21回
理事	佐々木 孝司	高21回
理事	中田 茂美	高21回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	木村 豊	高22回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	穂横 寿男	高23回
理事	鈴木 浩一	高23回

理事	渋谷 修一	高24回
理事	石原 裕人	高24回
理事	高荒 俊勝	高24回
理事	渡辺 久	高25回
理事	高橋 通夫	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	丹治 正博	高26回
理事	武藤 進	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	鈴木 眞一	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	五十嵐 俊道	高28回
理事	石関 達也	高28回
理事	加藤 勇治	高29回
理事	金子 弘保	高29回
理事	土田 淳	高29回
理事	加藤 孝一	高30回
理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回

理事	太田 英晴	高31回
理事	樋口 幸一	高32回
理事	藤野 貴	高32回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	渡辺 健二	高33回
理事	手塚 徹	高34回
理事	菅野 剛広	高34回
理事	鈴木 宏幸	高36回
理事	阿久津 順二	高37回
理事	黒森 陽一	高37回
理事	板垣 隆	高37回
理事	大槻 剛人	高37回
理事	三浦 康伸	高39回
理事	日下 直哉	高39回
理事	佐藤 智宏	高39回
理事	引地 孝之	高44回
理事	吉田 大樹	高45回
理事	遠藤 武義	高52回

令和2年度 同窓会事務局員

田中 訓樹	高22回
鈴木 公一	高32回
国分 聡	高33回
中原 勝	高41回
八巻 勤	高42回
渡辺 洋生	高43回
菅野 祐智	高44回
我妻 智	高46回
根本 浩之	高46回
菅野 陽介	高54回
渡邊 優輔	高54回
菅野 祐哉	高56回

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392
http://www.baienkai.org

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東山二丁目22-6
TEL.022-275-2887（落合 敏伸）

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（島田 久）
https://www.kantobaienka.ne.jp